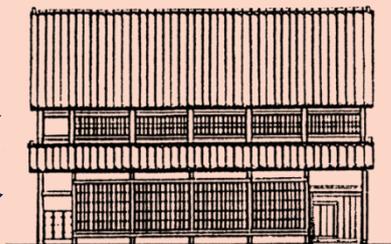


本町通りの町家と農家

宿場町であった本町は、もともと街道に沿って農家が建ち並んでいたようです。宿場町や近在農村の中心として、商業が発達してくると、金沢城下に近いこともあり、町家の表構えをとる家が増えていったと考えられます。本町の街道沿いの農家・町家風農家・町家の半数を農家が占めており、宿場町としては半農半町的であったことを物語っています。

町家



平入りの形で、屋根が家の前後に向かってつきます。雨や雪が家の両側に流れない為、家と家とを接して建ち並ぶことができます。表構えは基本的に二階建てです。

外観

農家



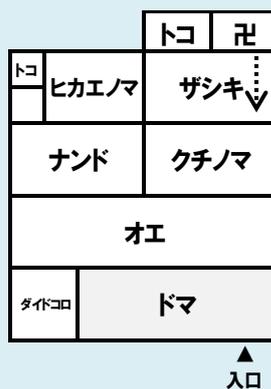
妻入りの形で、屋根が家の左右に向かってつきます。本来の農家は茅葺きの平屋で、前には深い庇がつきます。

卍 = 仏壇



トオリニワ(ドマ)が表から裏まで通じ、それに沿って部屋が2室、もしくは3室並んでいます。仏壇とトコの並びは、家の奥行に対して平行です。

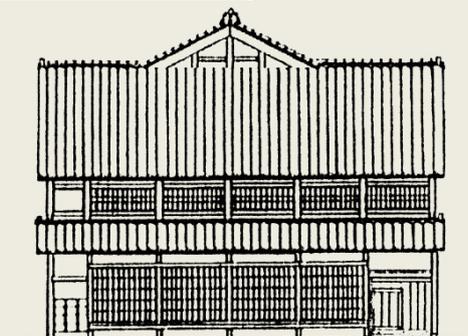
間取り



はじめにドマがあり、次に広いオエ、そして奥に部屋が田の字型に4室並びます。

また、仏壇とトコの並びが、家の奥行に対して直角に向いています。

合体型



奥の妻入りの間取りが農家になるものと、町家になる二種類の家がみられます。

奥が町家のもので厳密には合体型と言えないので、本町独特の形態かもしれません。

次のパネルからは、個々の例をとりあげながら、どのような家があるのかを紹介します。

(『野々市町史 民俗と暮らしの事典』より)